オーディオ実験室収載

DSD_Direct の評価

１．始めに

SONY の DSD_Direct というファイルフォーマットの変換ソフトがあり、これによって変換された 2.8MHzDSF 音源を聴く機会がありました。こういったファイルフォーマットの変換については、AudioGate や TASCAM Hi-Res Editor を使用してきており、オーディオ実験室のその他のページのフォーマット変換の音質比較のシリーズやオーディオ実験室の PC オーディオのページの Hi-Res Editor の評価のシリーズで報告しています。また、最近 PCM-DSD_Converter の存在を知り、PCM-DSD_Converter の評価シリーズで紹介しています。今回、DSD_Direct の変換前の同一音源から、AudioGate や Hi-Res Editor ならびに PCM-DSD_Converter で同一の変換済音源を作成し、音質を比較してみました。

２．各種音源の作成方法と試聴方法

DSD_Direct は 44.1KHzWAV から 2.8MHzDSF への変換しかできません。一方、PCM-DSD_Converter は 44.1KHzPCM から整数倍の 512sDIFF までの変換が可能であり、AudioGate3 では 5.6MHz までの DSF と DIFF と Hi-Res Editor では 11.2KHz までの DSF と DIFF への変換が可能です。それ故、2.8MHzDIFF を統一フォーマットとし、2.8MHzDSF は Hi-Res Editor で 2.8MHzDIFF への変換も行いました。
試聴には、再生ソフトとして Hi-Res Editor を使用しました。

３．各種変換済音源の試聴結果

DSD_Direct によって変換したものは DSF、DIFF とももっとも滑らかで緻密な音がします。AudioGate3 によって変換した DIFF は肌理が粗くなり、高域の伸びが足らない感じがします。Hi-Res Editor によって変換した DIFF は AudioGate3 よりは肌理が細かいですが、低い方が膨らむ感じがします。PCM-DSD_Converter によって変換した DIFF は、DSD_Direct によって変換したものにもっとも近い感じがします。

４．まとめ

変換に使用したソフトにより、音質に差がでてくることが分かりました。DSD_Direct は使用範囲が限られますが、限定された範囲内では音質的に推奨されるものです。

以上